

## 第3部

### 調査結果の解説

第1章 交際・結婚

第2章 出産

第3章 子育て

第4章 ワーク・ライフ・バランス

第5章 総括



## 第3部 調査結果の解説

### 第1章 交際・結婚

中京大学 現代社会学部 教授 松田茂樹

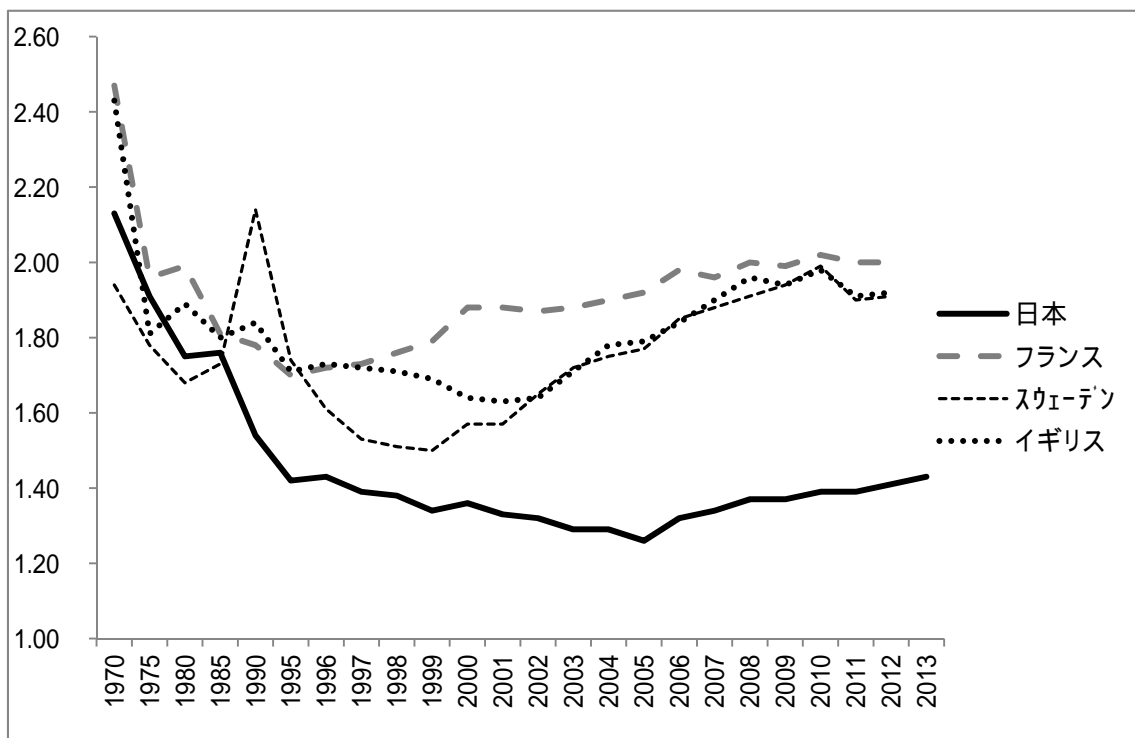
#### 1. 問題

本稿では、調査対象4か国の人々の交際・結婚についての意識を比較する。

各国の1970年代以降の合計特殊出生率（以下「出生率」）の推移が図1-1である。欧州3か国の2012年の出生率は、それぞれフランス2.00、スウェーデン1.91、イギリス1.92であり、いずれも人口置換水準に近い。ただし、図からわかるように、これら各国は出生率が人口置換水準を下回る少子化状態を経験して、その後出生率が回復してきている。各国の違いをみると、フランスは他2国よりも早い時期から、出生率が回復基調にある。イギリスとスウェーデンは、2000年代以降、同様のペースで出生率が回復している。これに対して、日本の出生率は1970年は2.13であったが、1970年代半ば以降人口置換水準を下回っている。特に90年代以降は低出生率であり、近年回復傾向にあるものの、最新の値は1.42にとどまる。

1970年代以降の日本の出生率低下の9割は未婚化、すなわち結婚しない・結婚できない人たち

図1-1 各国の合計特殊出生率の推移



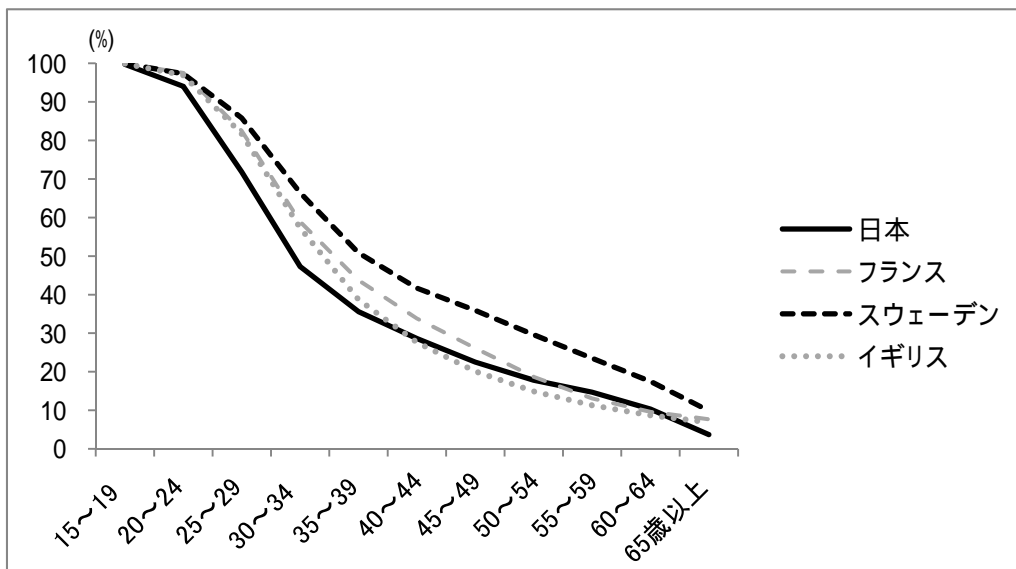
資料：国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』2015年版

が増えたことによる(岩澤 2014)。日本の年齢別未婚率をみると、男女とも 20 代前半までは約 90% を超えており、30 代後半においても男性の 3 人に 1 人、女性の 4 人に 1 人は未婚である。日本が少子化傾向を止めるには、結婚を希望する人ができるようにすることが必要とされている。

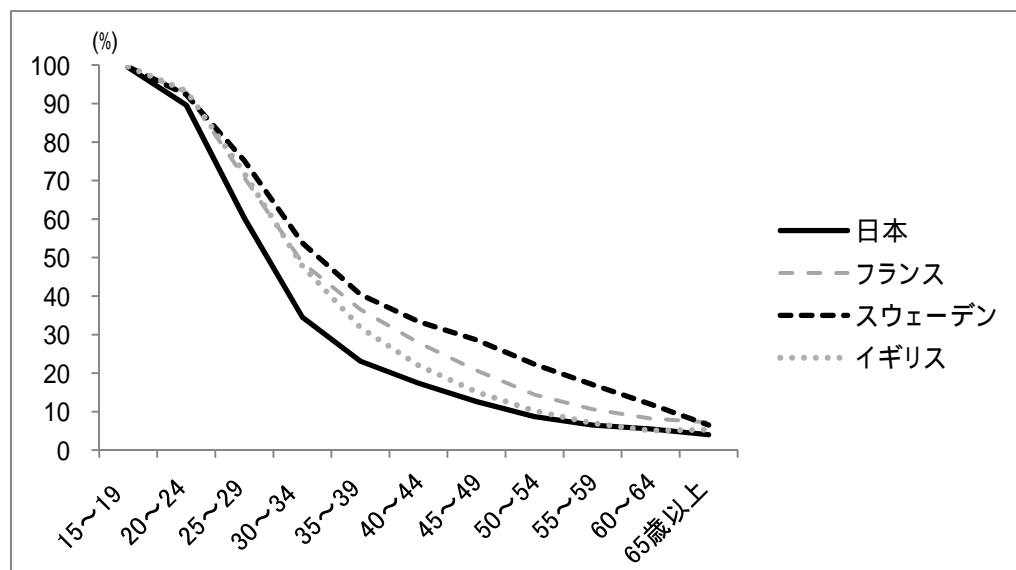
一方、欧州 3 か国は未婚化の状況が異なる。年齢別の未婚率(図 1-2)をみると、フランス・スウェーデン・イギリスは、特に若い世代において、我が国よりも未婚率が低くはない。欧州諸国では未婚化は進行したものの、法的な結婚を行わない同棲が増えている。この特徴は、出生率の低下や離婚率の増加等と合わせて「第 2 の人口転換」(ヴァン・デ・カー 2002)と呼ばれている。これらの国では、

図 1-2 年齢別にみた未婚率

< 男性 >



< 女性 >



資料：国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』2015年版

結婚は減ったものの、同棲が増えたことにより、結婚と同棲を合わせたカップル形成率は我が国よりも高い。欧州諸国において同棲が増えた背景には、次の2つがある。

第一に、フランスの PACS（連帯市民協約）やスウェーデンのサムボのように同棲を法的に保護する制度が整備されたことが挙げられる（松田 2013）。

フランスにおける法律婚と PACS の主な違いは次の通りである。まず、結婚は教会における挙式を伴うが、PACS は同棲していることを裁判所に届け出る。家族全員の所得を合算して所得税を決める「N 分の N 乗方式」という課税方式は、結婚した夫婦は直ちに、PACS のカップルは届出から三年後から適用される。カップルが別れる場合、結婚している夫婦は裁判が必要であるが、PACS のカップルは書類を提出するのみで済む。

スウェーデンにおいても、結婚は教会婚あるいは市民婚（役所等）での挙式によってなされるが、サムボの制度は同じ住所に居住して継続して共同生活を送り、お互いをパートナーとして認知しているカップルであれば適用される。離別する場合、結婚した夫婦は裁判所で離婚手続きを行う必要があるが、サムボではこの手続きは不要である。サムボのカップルも、個人財産を共有財産とする法的手続きをとることにより、相続において結婚していた夫婦との差はない。

なお、日本の結婚制度は、次に挙げる観点からフランスやスウェーデンにおける結婚よりも同棲の制度に近い。まず、日本では結婚する際に必ずしも宗教施設で挙式する必要はない。また、協議離婚であれば、当事者が書類を自治体に提出するのみで離婚が成立する。

第二は、個人や社会の解放を重視するなどのポストモダンの価値観が広まったためでもある。欧州における同棲の広がりや、フランスなど同棲を法的に保護している国においてのみみられる現象ではない。欧州では、若い世代を中心に個人や社会の解放を重視する「物質主義」から「脱物質主義」へというポストモダンの価値観の変化が起きており、この新しい価値観をもつ若い世代は、宗教の影響下にある伝統的な結婚から解放された同棲を志向するようになった（ヴァン・デ・カー 2002）。

以上を踏まえると、日本と欧州諸国を比較する場合、結婚のみではなく、結婚と同棲を合わせたカップル形成の状況を比較する必要がある。

本稿では、カップル形成の違いとその背景を国際比較して、日本においてカップル形成が低調である理由とカップル形成を促すための視点を探る。構成は次のとおりである。2 節では、調査結果から各国の結婚・同棲率およびその年齢による違いを示す。続く 3 節では結婚していない理由や結婚規範を分析し、4 節では将来の結婚・同棲意向や結婚生活への不安、5 節では交際についての意識を示す。最終節では、以上を踏まえて、我が国において希望する人が結婚できるようにするための方策の視点を述べる。

## 2．結婚していない理由

結婚していない理由の分析に先立ち、各国の婚姻状態をみると、日本では有配偶（60.3%）、同棲（1.1%）、離死別（6.0%）、結婚・同棲していない（32.4%）である。欧州諸国をみると、フラン

スでは有配偶（35.5％）同棲（26.3％）離死別（7.7％）結婚・同棲していない（29.9％）スウェーデンでは有配偶（32.0％）同棲（32.0％）離死別（9.3％）結婚・同棲していない（22.3％）イギリスでは有配偶（34.7％）同棲（24.1％）離死別（9.2％）結婚・同棲していない（32.0％）である。日本は有配偶の割合が高く、欧州3か国は同棲の割合が高い。結婚・同棲をしていない人の割合は、日本とイギリスが高く、スウェーデンが最も低い。年齢別に結婚・同棲をしていない人の割合をみると、日本の20代において特に高いことから、日本は若いうちにカップル形成ができていない国になっている。

現在結婚していない人を対象に、その理由（3つまで選択）を尋ねた結果が表1-1である。日本と欧州3か国の理由は大きく異なる。日本では、「適当な相手にまだ巡り会わないから」（53.5％）が最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」「今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから」などが続いている。これらの理由は欧州では少ない。同棲が広まっているために、欧州3か国では「結婚する必要性を感じないから」や「同棲のままで十分だから」の割合が高くなっている。欧州3か国内の違いをみると、「同棲のままで十分だから」「結婚する必要性を感じないから」の割合は、スウェーデンにおいて最も高く、次いでフランス、イギリスの順になっている。ここから、イギリスは比較的結婚規範・結婚志向が強い国であるといえる。

本調査では、対象者に結婚していない理由を1番目から3番目まで順位付けをするかたちで尋ねている。ここから結婚しない最大の理由は何かということを知ることができる。現在結婚して

表 1-1 現在結婚していない理由（3つまで選択）

(単位: %)

	日本 (n=297)	フランス (n=457)	スウェーデン (n=445)	イギリス (n=476)
適当な相手にまだ巡り会わないから	53.5	28.0	37.1	40.3
経済的に余裕がないから	33.7	16.2	14.8	27.3
今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから	32.0	19.9	18.0	14.7
結婚する必要性を感じないから	30.0	53.6	62.7	49.8
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	29.6	17.5	9.4	17.4
今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	27.3	14.0	8.3	7.4
結婚するにはまだ若すぎるから	13.8	22.8	15.3	29.2
異性とうまく付き合えないから	8.8	5.7	4.3	4.0
結婚生活のための住居のめどがたたないから	8.1	5.7	2.0	1.7
一生、結婚するつもりはないから	4.0	14.4	11.5	9.7
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から	3.0	2.4	0.2	1.7
同棲のままで十分だから	2.4	44.6	53.3	28.4

注: その他、特になし、無回答は表示を省略

日本と比べて、10%以上高い項目を太枠、10%以上低い項目に網掛け。

いない理由の1番目を集計した結果が表1-2である。前述の上位3項目の場合と順位は若干異なるが、日本において「適当な相手にまだ巡り会わないから」が最も高いことは変わらない。欧州3か国は、「結婚する必要性を感じないから」「同棲のままで十分だから」という割合が高い。

以上から、日本は「適当な相手にまだ巡り会わないから」、すなわち<出会い>の問題で結婚に至っていないといえる。我が国の若い世代が、もちろん望む人が、結婚することができるようにするためには、この出会い不足という理由に対処することが必要である。

表1-2 現在結婚していない理由(1番目)

(単位: %)

	日本 (n=297)	フランス (n=457)	スウェーデン (n=445)	イギリス (n=476)
適当な相手にまだ巡り会わないから	27.3	13.3	24.3	19.1
結婚する必要性を感じないから	15.5	25.8	33.7	25.8
今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから	14.5	4.6	3.4	2.3
経済的に余裕がないから	8.4	4.2	3.6	5.7
結婚するにはまだ若すぎるから	7.4	15.1	4.7	22.5
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	6.7	2.2	1.6	3.2
今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	4.7	2.8	0.4	0.6
異性とうまく付き合えないから	2.4	2.4	1.1	1.1
一生、結婚するつもりはないから	1.7	3.9	2.7	4.0
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から	1.3	0.4	0.2	0.2
結婚生活のための住居のめどがたたないから	1.0	0.7	0.0	0.0
同棲のままで十分だから	0.0	15.8	17.5	10.1

注: その他、特になし、無回答は表示を省略

性別によって現在結婚していない理由(主な項目)は異なるであろうか。この集計を行った結果(表1-3)をみると、各国とも結婚していない理由の男女差は決して大きいものではない。例えば、「適当な相手にまだ巡り会わないから」という割合は、日本では男性が50.0%、女性が57.2%である。欧州諸国で多い「結婚する必要性を感じないから」をみると、スウェーデンの男性が64.9%、女性が60.0%などとなっている。

しかし、「経済的に余裕がないから」という理由は、日本とイギリスにおいて男女差が大きい。具体的に「経済的に余裕がないから」を挙げた割合は、日本では男性44.7%、女性22.1%であり、男性の方が22.7ポイント高い。日本の男性においては、「適当な相手にまだ巡り会わないから」とともに「経済的に余裕がないから」を挙げた割合が高い。同じくイギリスでも、男性32.9%、女性21.6%であり、男性の方が11.3ポイント高い。ここから、日本とイギリスでは、男性側に稼得役割がより求められる社会であることがうかがえる。

表 1-3 性別にみた現在結婚していない理由（3 つまで選択）

(単位：%)

	適当な相手にまだ巡り会わないから	経済的に余裕がないから	今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから	結婚する必要性を感じないから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	結婚するにはまだ若すぎるから	同棲のままで十分だから
男性							
日本(n=152)	50.0	44.7	30.9	26.3	25.7	14.5	1.3
フランス(n=227)	29.1	19.4	20.3	53.7	20.7	25.6	44.1
スウェーデン(n=245)	35.1	17.1	19.6	64.9	8.2	16.7	53.1
イギリス(n=240)	38.3	32.9	16.7	50.0	19.6	33.8	30.0
女性							
日本(n=145)	57.2	22.1	33.1	33.8	33.8	13.1	3.4
フランス(n=230)	27.0	13.0	19.6	53.5	14.3	20.0	45.2
スウェーデン(n=200)	39.5	12.0	16.0	60.0	11.0	13.5	53.5
イギリス(n=236)	42.4	21.6	12.7	49.6	15.3	24.6	26.7
男性 女性							
日本	-7.2	22.7	-2.2	-7.5	-8.1	1.4	-2.1
フランス	2.1	6.3	0.7	0.3	6.4	5.6	-1.2
スウェーデン	-4.4	5.1	3.6	4.9	-2.8	3.2	-0.4
イギリス	-4.0	11.3	4.0	0.4	4.3	9.2	3.3

注：主な項目を表示

男女差が10%以上のところおよびそのときに割合が高い性別の項目に網掛け。

日本の男性は「経済的に余裕がないから」という理由が高いが、男性の中でも経済的に余裕のない人ほどこの理由を挙げた割合が高いとみられる。そこで、性・本人年収別にみた現在結婚していない理由として「経済的に余裕がないから」を選択した割合をみた結果が図 1-3 である。

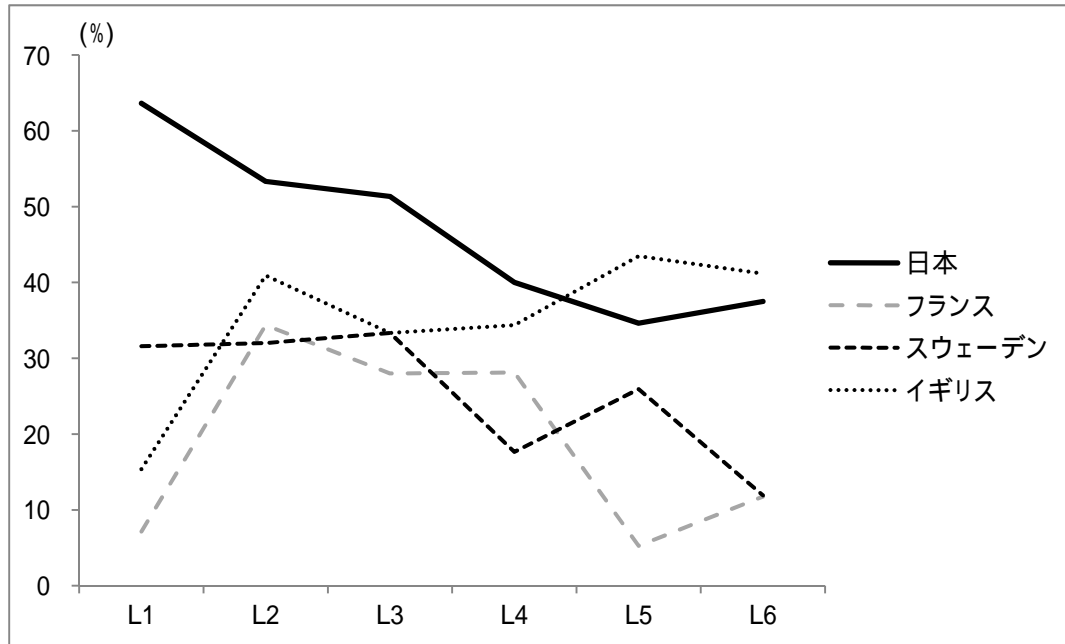
男性についてみると、日本では想定されたとおり、年収が低い人ほど「経済的に余裕がないから」と回答している。その割合は、年収が 300 万円未満の人で特に高い。この「300 万円」という数値は、既存調査においても若年男性が結婚できるか否かの分岐点になっていることが指摘されている。これに対して、欧州 3 か国では、男性の年収と「経済的に余裕がないから」を挙げた割合の関係は不明瞭である。低所得の若年男性が、経済的理由から結婚することが難しくなっていることが、他国と比べたときの日本の特徴である。

女性をみると、各国とも男性のように年収が低いほど「経済的に余裕がないから」を挙げた割合が高くなるという関係はみられない。

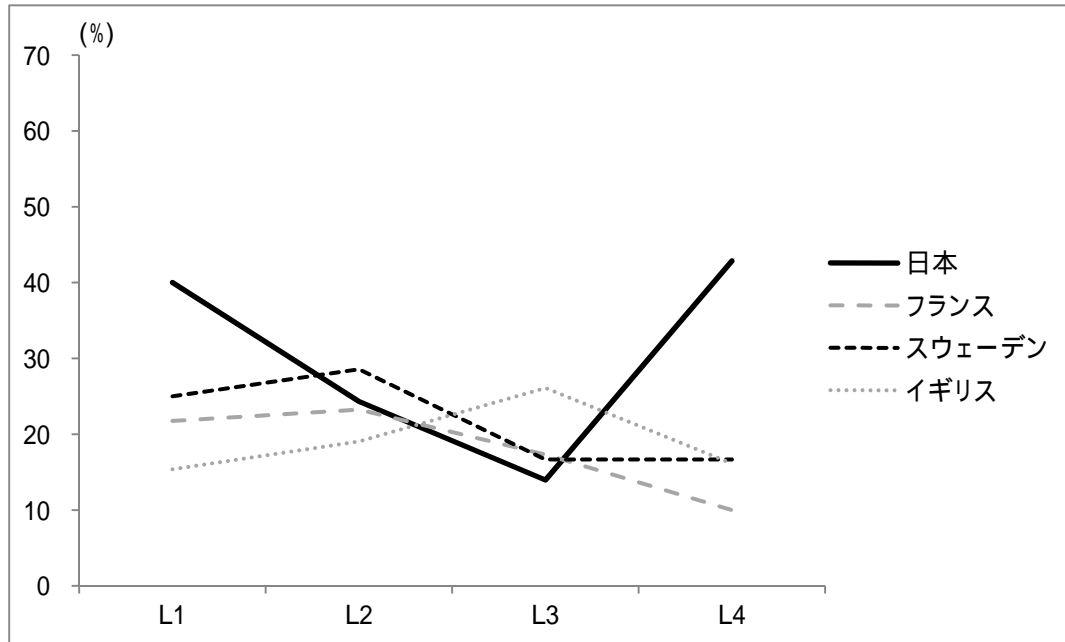


図 1-3 性・本人年収別にみた現在結婚していない理由として「経済的に余裕がないから」を選択した割合

< 男性 >



< 女性 >



注：各国とも「収入はなかった」人が少ないため、表記を省略。L1 100万円未満、L2 100万円以上200万円未満、L3 200万円以上300万円未満、L4 300万円以上400万円未満、L5 400万円以上500万円未満、L6 500万円以上700万円未満。

次に、人生における結婚や同棲の必要性についての回答結果が表 1-4 である。選択肢は、「結婚は必ずすべきだ」「結婚はした方がよい」「結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい」「結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい」「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」などである。

結婚した方がよい（「結婚は必ずすべきだ」＋「結婚はした方がよい」）と回答した割合は、日本（65.5%）、フランス（29.8%）、スウェーデン（26.7%）、イギリス（40.2%）である。すなわち、結婚規範は、日本とイギリスで比較的強く、フランスとスウェーデンで弱い。

フランスとスウェーデンにおいては、「結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい」という回答割合がそれぞれ 25.5%、36.0%と高い。日本では、この割合は 3.1%に過ぎない。

「結婚は必ずすべきだ」から「結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい」までを足し合わせたものが、カップルを形成すべきと考えている人の割合になる。それは日本 77.3%、フランス 78.5%、スウェーデン 66.6%、イギリス 65.4%であり、ここから日本とフランスではカップル形成をすべきという規範が他国よりも強いといえる。逆に、スウェーデンとイギリスでは「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」と回答した割合が 3 割で、日本とフランスにおける値よりも高い。

以上をまとめると、日本は結婚規範が強く、同棲に対する抵抗感が強い国であるといえる。イギリスは日本に次いで結婚規範が強いものの、一方でカップルを形成しないことに対する許容意識が比較的高い。フランスとスウェーデンはともに結婚規範が弱い国であるが、両国を比べるとフランスはカップルを重視するのに対して、スウェーデンではカップルを形成しないことに対する許容意識も比較的高いという違いがある。

結婚に対する意識は、本人の婚姻形態によっても異なることが想定される。婚姻形態別に結婚すべき・結婚した方がよいと回答した割合が図 1-4 である。その割合は、日本では、有配偶者（71.0%）、結婚・同棲していない人（59.8%）であり、両者の意識差は他国に比べて小さい。すなわち、日本は結婚している人もそうでない人も結婚規範が強いところに特徴がある。一方、欧州 3 か国では、有配偶者は結婚規範が強いが、それ以外では極めて低い。このような特徴は、結婚規範の強い人が結婚していることと、自分が結婚した人は結婚することを肯定するようになることによって生じていると考えられる。

日本は結婚規範が強いが、これは若い世代においてもそうであろうか。性・年齢別にみた結婚すべき・結婚した方がよいと回答した割合が図 1-5 である。性別にみると、この割合は男性 71.7%、女性 60.5%であり、男性の方が結婚規範は強い。年齢別にみると若い世代ほど結婚規範が薄れているということはない。20 代女性は、年長者よりも結婚規範が強い。性・年齢を組み合わせると、30 代以上では男性の方が女性よりも結婚規範が強いが、20 代ではその男女差は小さい。

表 1-4 人生における結婚や同棲の必要性

(単位: %)

	結婚は必ずすべきだ	結婚はした方がよい	結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい	結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい	結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない	その他	わからない
日本	9.0	56.5	3.1	8.8	21.8	-	0.9
フランス	5.9	23.9	25.5	23.2	20.0	0.4	1.1
スウェーデン	4.6	22.1	36.0	3.9	31.1	1.6	0.7
イギリス	10.6	29.6	18.2	7.0	32.4	0.4	1.8

図 1-4 結婚・同棲状態別にみた結婚すべき・結婚した方がよいと回答した割合

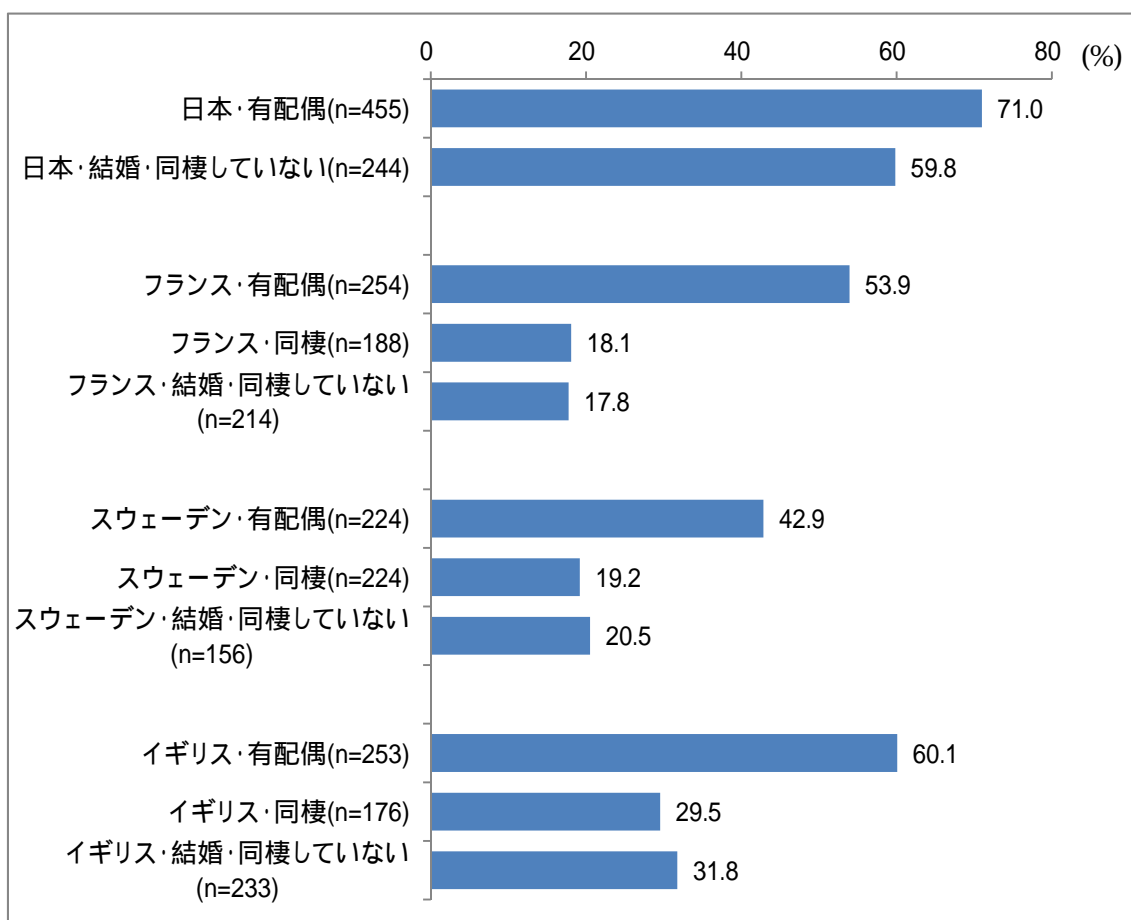
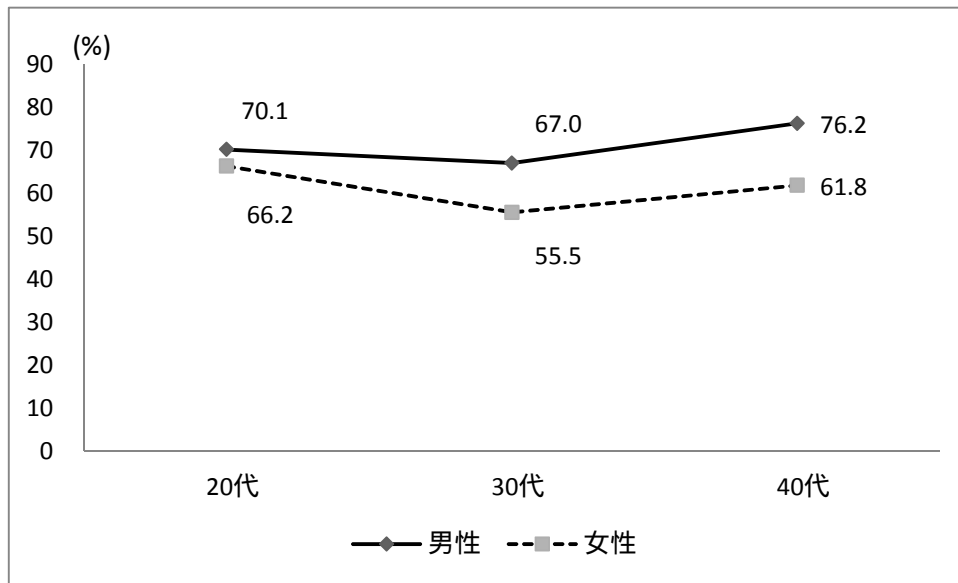


図 1-5 性・年齢別にみた結婚すべき・結婚した方がよいと回答した割合（日本）

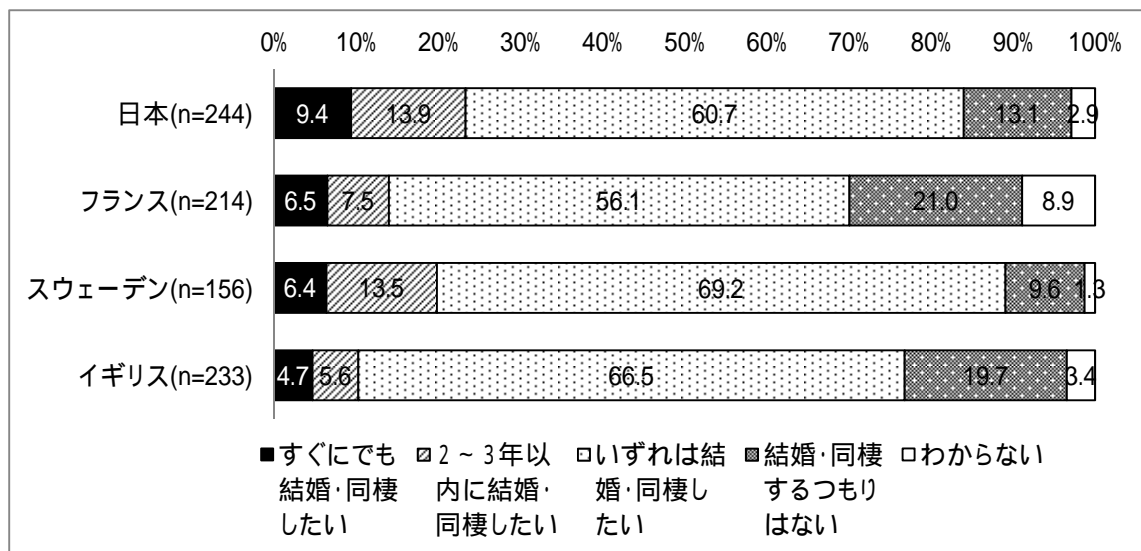


### 3. 将来の結婚・同棲意向

ここまでの集計からわかるように、カップル形成は日本では専ら結婚によってなされており、欧州3か国は結婚と同棲の両者によってなされている。これらの違いを念頭において、各国の人々の将来の結婚・同棲意向を集計した結果が図 1-6 である。

日本の回答結果は、「すぐにでも結婚・同棲したい」(9.4%)、「2～3年以内に結婚・同棲したい」(13.9%)、「いずれは結婚・同棲したい」(60.7%)、「結婚・同棲するつもりはない」(13.1%)である。このうち、「すぐにでも結婚・同棲したい」「2～3年以内に結婚・同棲したい」「いずれは結婚・同棲したい」を合わせた回答を将来結婚・同棲意向がある割合とする。この結婚・同棲意向が

図 1-6 将来の結婚・同棲意向（結婚・同棲していない人）

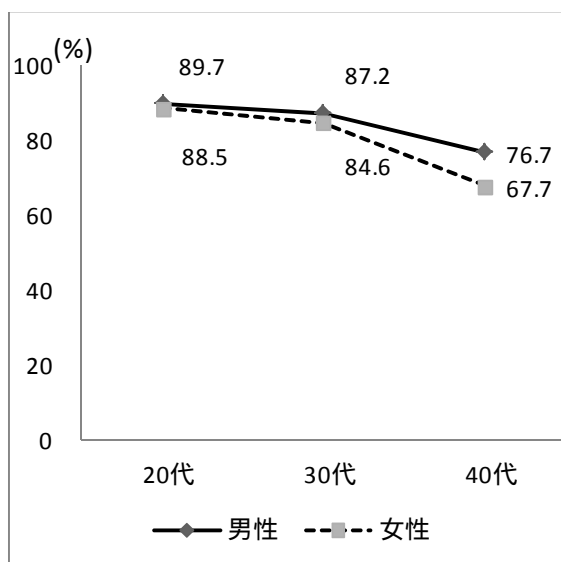


ある割合は、日本(84.0%)とスウェーデン(89.1%)が高く、フランス(70.1%)とイギリス(76.8%)が相対的に低い。日本は、早く結婚したい「すぐにも結婚・同棲したい」と「2～3年以内に結婚・同棲したい」と回答した割合が高い。なお、ここまでの分析から、日本における結婚・同棲意向の内訳は、同棲の意向ではなく専ら結婚意向をあらわしているとみられる。

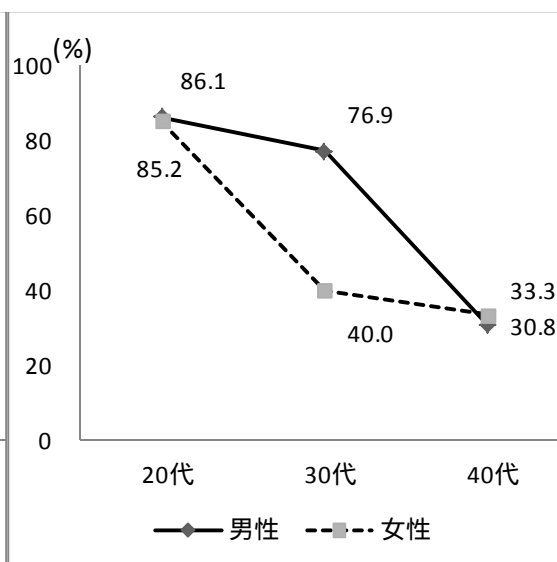
各国、年齢別にみた結婚・同棲意向が図 1-7 である。日本とスウェーデンは、年齢にかかわらず結婚・同棲意向が高い。ただし、日本をみると、20～30代では結婚・同棲意向は8割以上であるものの、40代になると減少する(40代女性67.7%)。イギリスとフランスは、年齢が上がると結婚・同棲意向が大幅に減少する。ただし、この関係は、両国において年齢が上がるほど結婚・同棲意向

図 1-7 将来の結婚・同棲意向がある割合(結婚・同棲していない人)

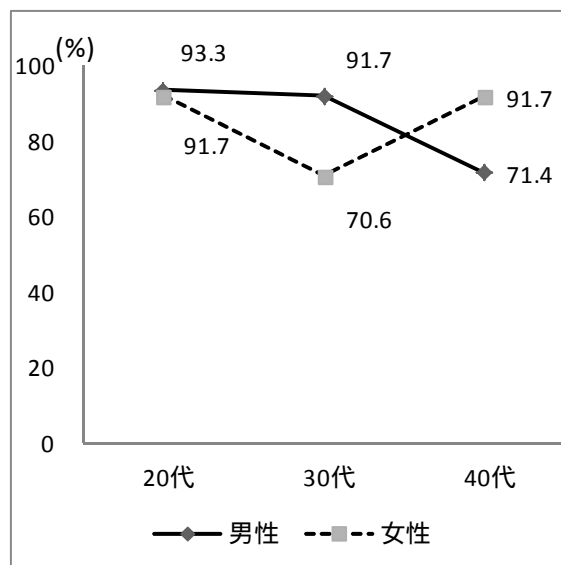
<日本>



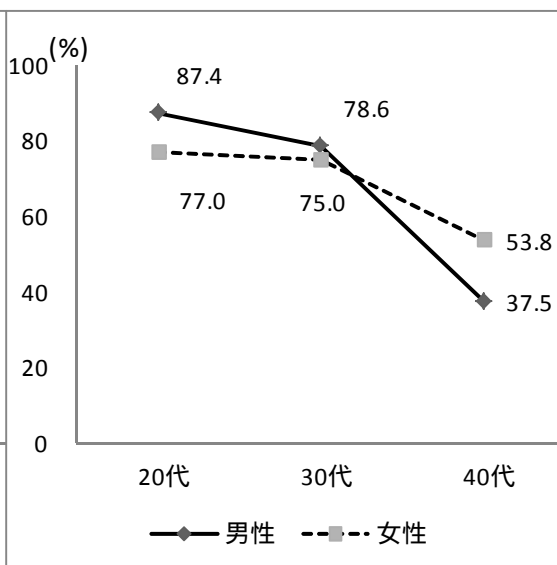
<フランス>



<スウェーデン>



<イギリス>



のあった人が結婚・同棲をしているために、このような結果になっていることも考えられる。

続いて、結婚生活について不安を感じることを尋ねた結果が表 1-5 である。日本では、「結婚生活にかかるお金」が 37.3%で最も多く、以下「お互いの親の介護」(35.9%)、「お互いの親族との付き合い」(32.6%) などとなっている。この 3 項目は、日本の方が欧州 3 か国よりも高い割合である。日本と比べて欧州諸国では、「二人の相性」や「二人の間で起こる問題の解決」を挙げた割合が高い。

表 1-5 結婚生活について不安に感じること

(単位: %)

	日本	フランス	スウェーデン	イギリス
結婚生活にかかるお金	37.3	23.5	9.3	23.3
お互いの親の介護	35.9	8.7	13.1	6.0
お互いの親族との付き合い	32.6	23.9	16.1	18.4
子供の育て方	24.8	26.7	15.0	17.1
二人の間で起こる問題の解決	23.6	33.4	35.4	25.2
子供の教育	23.5	13.8	8.6	10.4
二人の相性	21.6	41.4	26.7	34.4
自分の自由の制約	18.3	23.2	17.7	17.0
お互いの前の配偶者やパートナーとの子供への向き合い方	12.5	15.1	13.6	8.6
雇用が安定していない	10.1	17.2	8.7	8.4
子供ができない可能性	5.0	6.2	8.7	4.1

注: その他、特になし、わからない、無回答は表示を省略

日本と比べて、10%以上高い項目を太枠、10%以上低い項目に網掛け。

性・未既婚別に結婚生活について不安に感じることの上位 2 項目を示したものが表 1-6 である。日本は、結婚・同棲していない男性において、「結婚生活にかかるお金」を挙げた割合が特に高い。この不安は、有配偶の男性や結婚・同棲していない女性においても上位に挙がっている。イギリスでも、同棲や結婚・同棲していない男女において、「結婚生活にかかるお金」が 2 位であることから、日本と同様に同国において経済的な問題から結婚できない人たちが少なからずいることが伺える。フランスやスウェーデンは、未既婚にかかわらず、「二人の相性」や「二人の間で起こる問題の解決」などの不安が上位である。ただし、スウェーデンの有配偶者においては、同国の高齢者福祉改革のためか、「お互いの親の介護」が上位に挙がっている。

これらの結果から、他国に比べて日本では結婚生活を送る上でそれにかかる経済的な負担が最大の課題であるといえる。また、日本では夫婦二人の間の問題よりも、親の介護や親族とのつきあいといった親族とのかかわりが不安材料となっている。

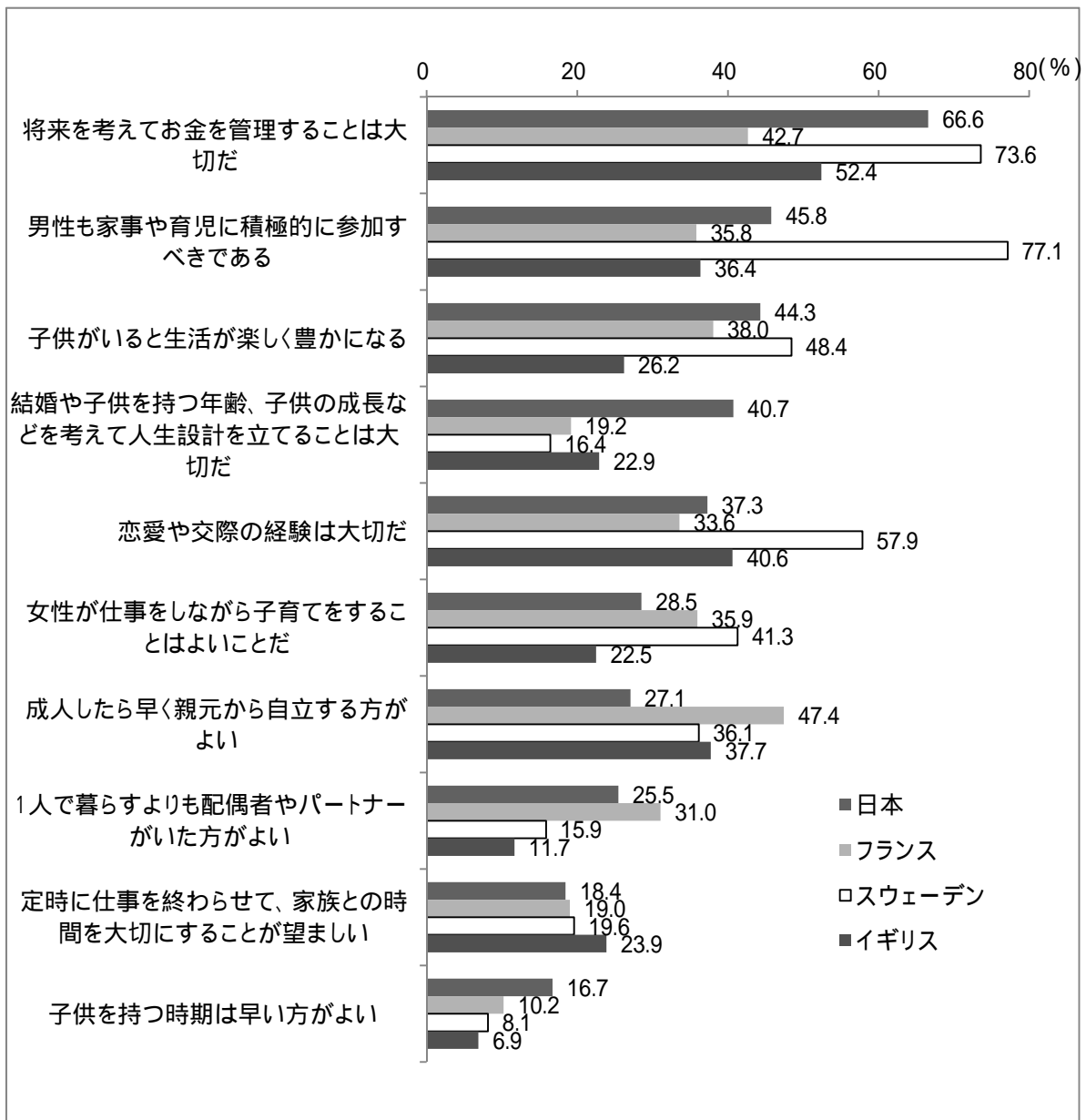
表 1-6 性・未既婚別にみた結婚生活について不安に感じること（上位 2 項目）

		第1位	第2位
日本男性	有配偶(n=184)	お互いの親の介護(37.5%)	結婚生活にかかるお金(33.7%)
	結婚・同棲経験なし(n=135)	結婚生活にかかるお金(53.3%)	二人の相性(30.4%)
日本女性	有配偶(n=271)	お互いの親の介護(49.1%)	お互いの親族とのつきあい方(34.3%)
	結婚・同棲経験なし(n=109)	お互いの親族とのつきあい方(49.5%)	結婚生活にかかるお金(37.6%)
フランス男性	有配偶(n=113)	子どもの育て方(41.6%)	二人の相性(38.9%) 二人の間で起こる問題の解決(38.9%)
	同棲(n=89)	二人の相性(30.3%)	二人の間で起こる問題の解決(25.8%)
	結婚・同棲経験なし(n=111)	二人の相性(43.2%)	自分の自由の制約(36.0%)
フランス女性	有配偶(n=141)	二人の間で起こる問題の解決(42.6%)	二人の相性(41.8%)
	同棲(n=99)	二人の相性(26.3%)	二人の間で起こる問題の解決(25.3%)
	結婚・同棲経験なし(n=103)	二人の相性(56.3%)	二人の間で起こる問題の解決(35.0%) 自分の自由の制約(35.0%)
スウェーデン男性	有配偶(n=108)	二人の間で起こる問題の解決(29.6%)	お互いの親の介護(25.0%)
	同棲(n=122)	二人の間で起こる問題の解決(27.9%)	二人の相性(25.4%)
	結婚・同棲経験なし(n=91)	二人の相性(50.5%)	二人の間で起こる問題の解決(48.4%)
スウェーデン女性	有配偶(n=116)	お互いの親の介護(27.6%)	二人の間で起こる問題の解決(20.7%)
	同棲(n=102)	二人の間で起こる問題の解決(34.3%)	二人の相性(24.5%)
	結婚・同棲経験なし(n=65)	二人の間で起こる問題の解決(53.8%)	二人の相性(47.7%)
イギリス男性	有配偶(n=111)	二人の間で起こる問題の解決(28.8%)	二人の相性(25.2%)
	同棲(n=89)	二人の相性(29.2%)	結婚生活にかかるお金(28.1%)
	結婚・同棲経験なし(n=131)	二人の相性(47.2%)	結婚生活にかかるお金(32.8%)
イギリス女性	有配偶(n=142)	二人の間で起こる問題の解決(33.1%)	子どもの育て方(31.0%)
	同棲(n=87)	二人の相性(24.1%)	結婚生活にかかるお金(23.0%)
	結婚・同棲経験なし(n=102)	二人の相性(43.1%)	結婚生活にかかるお金(29.4%)

注：経済的な不安に網掛け

結婚や家族の在り方について自分の子供に成人までに伝えたいと思うことが図 1-8 である。図から視覚的にわかるとおり、この質問に対する回答結果は国ごとの差が大きい。日本では、「将来を考えてお金を管理することは大切だ」(66.6%) が最多であり、以下「男性も家事や育児に積極的に参加すべきである」「子供がいると生活が楽しく豊かになる」などが続く。イギリスでは、我が国と同様に「将来を考えてお金を管理することは大切だ」(52.4%) が最多だが、次は「恋愛や交際の経験は大切だ」であり、この割合は日本よりも大幅に高い。フランスでは、「成人したら早く親元から自立する方がよい」が最多であり、以下「将来を考えてお金を管理することは大切だ」などが続く。スウェーデンでは、「男性も家事や育児に積極的に参加すべきである」が特に高く、「女性が仕事をしながら子育てをすることはよいことだ」を挙げた割合も高い。イギリスでは「女性が仕事をしながら子育てをすることはよいことだ」や「男性も家事や育児に積極的に参加すべきである」の割合が日本以上に低い。

図 1-8 結婚や家族の在り方について自分の子供に成人までに伝えたいと思うこと



注：その他、特になし、わからないの表示は省略。

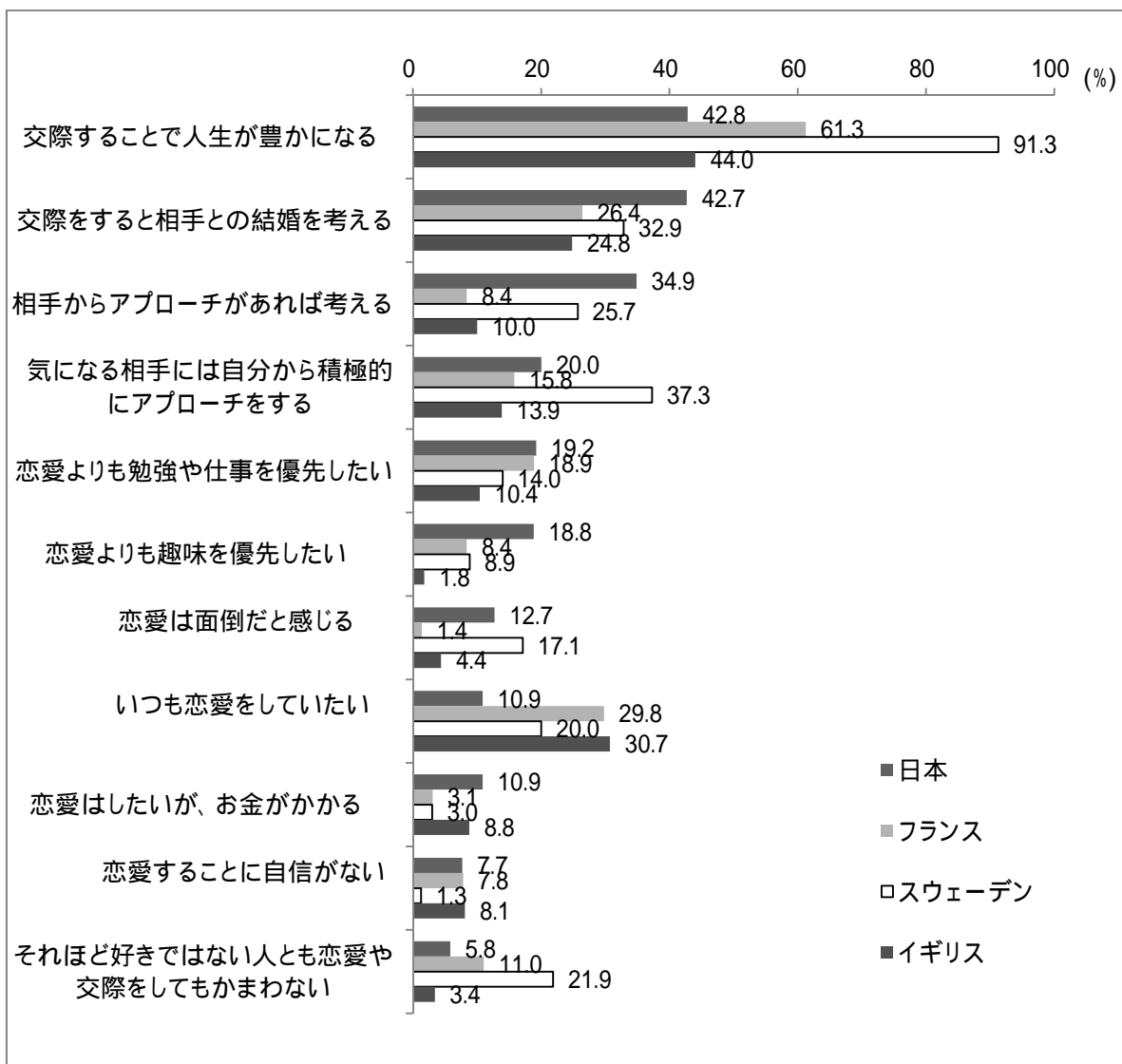


## 5 . 恋愛・交際

各国全体平均の恋愛に関する考えが図 1-9 である。いずれの国においても「交際することで人生が豊かになる」の割合が最も高い。中でもスウェーデンは大半の人がこの項目を支持している。恋愛への姿勢を「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」でみると、スウェーデンが最も積極的である。

日本の特徴は、「交際をすると相手との結婚を考える」割合が他国よりも高いことである。すなわち、恋愛と結婚の結びつきが強い。また、「いつも恋愛をしていたい」割合は低く、「相手からアプローチがあれば考える」の割合も高いことから、日本は恋愛に対して受け身的な姿勢がみられる。

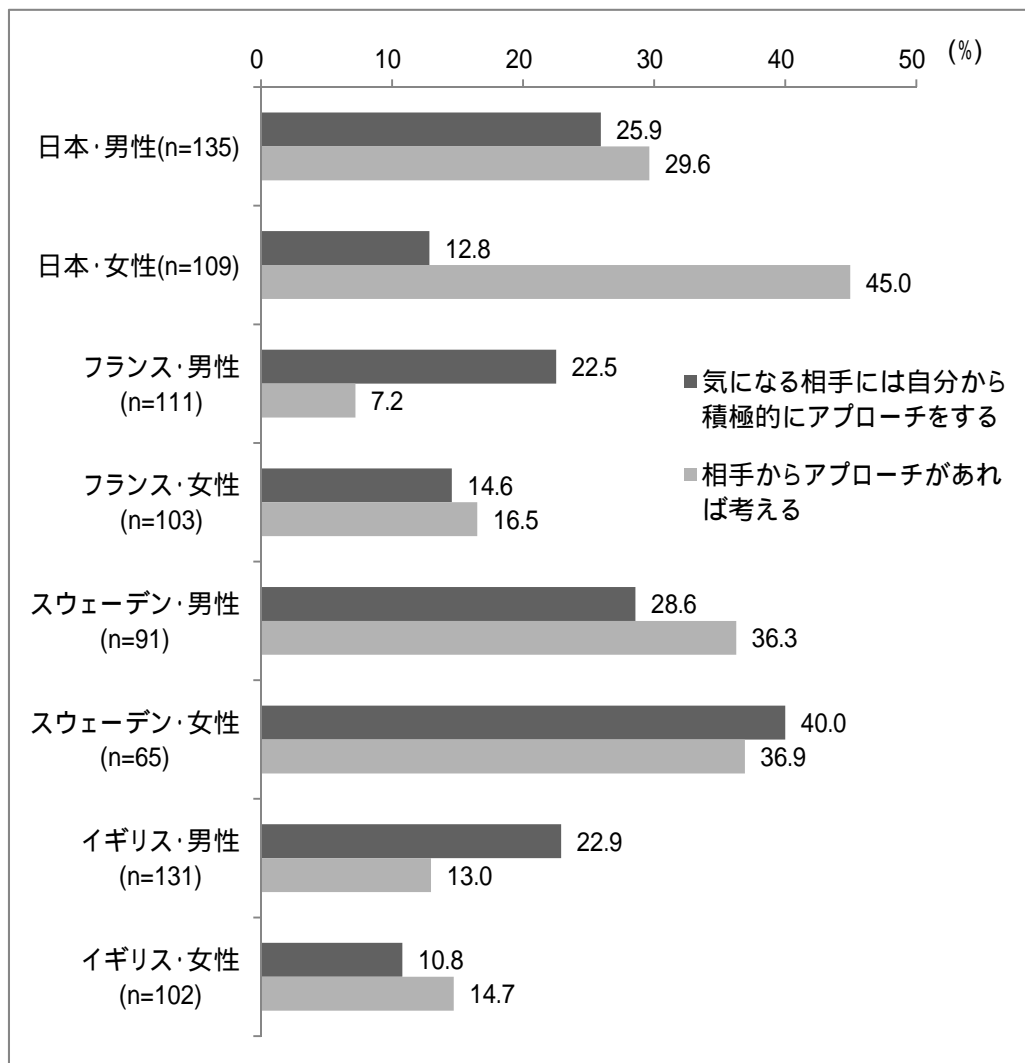
図 1-9 恋愛に関する考え



注：その他、わからないの表示を省略。

結婚・同棲をしていない人の恋愛への姿勢はどのようになっているだろうか。結婚・同棲をしていない人に限定して「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」と「相手からアプローチがあれば考える」を挙げた割合を集計した結果が図 1-10 である。両項目をみると、各国で恋愛に対する姿勢が大きく異なることがわかる。注目されることに、日本女性は、「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」が 12.8%に対して、「相手からアプローチがあれば考える」は 45.0%に上っており、強い受け身の姿勢である。スウェーデンは、男女とも自分からもアプローチをし、相手からのアプローチを受けようとする傾向がある。

図 1-10 「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」と「相手からアプローチがあれば考える」を挙げた割合（結婚・同棲していない人）



最後に、結婚・同棲をしていない人に限定して、交際相手とのどのような出会いの機会があるとよいかという問いに対する回答を集計した結果が表 1-7 である。

日本では、「友人に紹介を頼む」が 58.2%で最多であり、次いで「趣味のサークルに入る」「職場

の同僚や先輩に紹介を頼む」などとなっている。フランス以外の国では「友人に紹介を頼む」を挙げた割合が最も高い。

日本よりも欧州3か国の方がおおむね回答割合が高いものに、「合コンやパーティに行く」「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」がある。中でも「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」を挙げた割合は、日本では10%に満たないが、他国では約3割以上に上っている。こうした場が欧州諸国ではポピュラーな出会いの場と考えられている。

選択肢の中で、行政が関わることができるものに「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)」がある。これを挙げた割合は、日本では6.1%、すなわちおよそ17人に1人がこのような支援サービスを希望している。この割合は、フランスの1.4%、スウェーデンの1.9%に比べて、高い。

性別にみると、日本では、女性の方が人からの紹介を希望する割合が高い(表1-8)。「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」(9.2%)、「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)」(7.3%)についても、日本では男性よりも女性の方が挙げた割合が高い。

表1-7 どのような出会いの機会があるとよいか(結婚・同棲していない人)

(単位: %)

	日本	フランス	スウェーデン	イギリス
友人に紹介を頼む	58.2	30.4	67.3	57.5
趣味のサークルに入る	34.4	18.2	45.5	17.2
職場の同僚や先輩に紹介を頼む	32.0	11.7	35.3	15.9
合コンやパーティに行く	22.5	34.6	49.4	17.2
資格取得やスキルアップのための学校に通う	8.6	2.3	18.6	6.0
婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する	8.2	29.4	46.8	28.3
交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)	6.1	1.4	1.9	4.7
親や親戚に紹介を頼む	4.5	0.0	5.1	9.0

注: その他、特になにもしない、わからない、無回答は表示を省略

日本と比べて、10%以上高い項目を太枠、10%以上低い項目に網掛け。

表 1-8 性別にみたどのような出会いの機会があるとよいか（結婚・同棲していない人）

(単位: %)

		友人に紹介を頼む	趣味のサークルに入る	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	合コンやパーティに行く	資格取得やスキルアップのための学校に通う	婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する	交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)	親や親戚に紹介を頼む
日本	男性(n=135)	56.3	37.0	30.4	23.7	7.4	7.4	5.2	1.5
	女性(n=109)	60.6	31.2	33.9	21.1	10.1	9.2	7.3	8.3
フランス	男性(n=111)	34.2	18.0	13.5	33.3	1.8	32.4	0.9	-
	女性(n=103)	26.2	18.4	9.7	35.9	2.9	26.2	1.9	-
スウェーデン	男性(n=91)	62.6	39.6	31.9	53.8	15.4	47.3	1.1	4.4
	女性(n=65)	73.8	53.8	40.0	43.1	23.1	46.2	3.1	6.2
イギリス	男性(n=131)	56.5	14.5	16.0	13.0	3.8	29.8	4.6	9.9
	女性(n=102)	58.8	20.6	15.7	22.5	8.8	26.5	4.9	7.8

注：その他、特になにもしない、わからない、無回答は表示を省略

## 6. まとめ

以上の分析結果を総合して、国際比較によって明らかになった我が国の交際・結婚の特徴をまとめたい。

まず、結婚と同棲の状況についてである。日本ではカップル形成は専ら結婚によってなされており、同棲は非常に少ない。これに対して、欧州3か国は同棲の割合が高い。この背景には、日本と欧州諸国における同棲を法的に保護する制度の有無や結婚に対する規範意識の違いなどがある。日本についてみると、年長者のみならず若年層も結婚をすべきという規範意識を強く持っており、また本人の結婚意向も強い。他国の状況を見ると、イギリスは日本に次いで結婚規範が強いものの、一方でカップルを形成しないことに対する許容意識が比較的高い。フランスとスウェーデンはともに結婚規範が弱いというように、欧州諸国間においても国ごとに違いがある。

カップル形成の実態を比較すると、日本はイギリスと並び結婚・同棲をしていない人の割合が高くなっている。そして、結婚・同棲をしていない人に今後の結婚・同棲意向を尋ねた結果、日本とスウェーデンでは8割以上の方が結婚・同棲意向があると回答している。特に日本は「すぐにでも結婚・同棲したい」または「2～3年以内に結婚・同棲したい」と回答した割合、すなわち早く結婚したいという回答割合が高い。

次に、日本の若い世代が現在結婚していない・結婚できない理由として、出会いの問題と経済的問題の2つが主要因であることが明らかになった。

出会いの問題についてみると、日本では現在結婚していない理由として「適当な相手にまだ巡り会わないから」の割合が最も高い。そして、交際の姿勢をみると、日本女性は、「気になる相手には

自分から積極的にアプローチをする」が非常に少なく、一方「相手からアプローチがあれば考える」と答えた割合が高いという交際に対して強い受け身の姿勢である。すなわち、出会いがないことから結婚に至っていないが、自分からは結婚相手をみつけようとする行動が少ない。

結婚・同棲をしていない人が求める出会いの機会をみると、各国ともおおむね「友人に紹介を頼む」を挙げた割合が高い。しかし、これ以外の項目をみると、欧州3か国は「合コンやパーティに行く」「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」という方法を挙げる割合が高いが、これらは日本では支持が少ない。行政が支援に関わることが可能である「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する(有料・無料を問わない)」をみると、日本の結婚・同棲をしていない人の17人に1人はこれを希望している。この割合は、フランスの1.4%、スウェーデンの1.9%に比べて、高い。性別にみると、日本では、女性の方が友人からの紹介を希望する割合が高い。

経済的問題をみると、日本の未婚男性、特に年収が300万円未満の人において、「経済的に余裕がないから」結婚していないという回答割合が高くなっている。なお、この割合はイギリスの男性においても比較的高い。背景には、両国では男性側に稼得役割がより求められる社会であることがある。経済的問題は未婚者のみが感じているものではない。有配偶者も含めた全体の回答をみても、結婚生活について不安に感じることも、欧州諸国では、「二人の相性」や「二人の間で起こる問題の解決」を挙げた割合が高いのに対して、日本では「結婚生活にかかるお金」が最多である。

以上を踏まえると、日本の若い世代が希望すれば結婚することができるようにするためには、出会いの場づくりに対する支援と経済的問題へ対処することが求められているといえる。

## 文献

岩澤美帆(2014)「結婚と出生 - 出産離れがもたらす未婚化」『日本人口学会企画セッション「少子化論のパラダイム転換 出生数増加の決め手は何か」報告資料』。

ヴァン・デ・カー, デイルク J., (2002)「先進諸国における「第二の人口転換」」『人口問題研究』58(1): 22-56。

松田茂樹(2013)『少子化論 なぜまだ結婚、出産しやすい国にならないのか』勁草書房。